

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092400102		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム 野の花	ユニット名	
所在地	福岡県筑後市大字前津1417-1		
自己評価作成日	2020年6月30日	評価結果市町村受理日	2020年9月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2020年7月13日	評価確定日	2020年8月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に四季折々の季節に応じた行事を職員と一緒に楽しんで頂きながら、田畑に囲まれた穏やかな環境で日々の生活を共にゆくりと過ごして頂きたいと考えています。またご家族様にも安心して大切なご家族が入居して頂けますように誠実にそして日々、研鑽を重ねながらケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

筑後市にあるグループホーム“野の花”は2014年に開設している。ホームの周囲は梨や桃、葡萄農園も多く、地域の方から果物を差し入れして頂ける関係になっている。ホームの職員も草刈り機を持参して地域の清掃活動(道路愛護)に参加し、地域の一員として良き関係作りを続けている。ホーム内は明るく、ご利用者の方々の笑い声や歌声が聞かれている。日々の体調の維持・向上も大切にされており、下肢筋力の低下もあまり見られず、退院時に車椅子を利用されていた方が、歩行器での自立歩行になられた方もおられる。入居前に自宅でされていた家事(お米とぎや料理のつぎ分け、梅干し作りなど)を担って頂き、役割のある生活になるように努めている。社長、主任(看護師)、管理者、介護支援専門員、介護職員全員のチームワークも良く、コロナの影響で外出自粛や家族との面会が制限されている中でも、少しでも安心と笑顔を増やす取り組みを続けているホームである。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの目のつく所に貼ってあり、理念を基に行動している。	地域密着型のグループホームとして、理念の中に「なじみのある場所で、四季折々の季節や五感を感じる生活を支援します」と掲げており、申し送り時に理念を唱和している。毎日「歩け！歩け！運動」を行い、理念にある「1日1日「今」を大切に暮らしを支援します」の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年、行政区の道路愛護は中止になったが、公民館の清掃活動に参加した。また、地域の学校の職場体験受け入れを行った。	2020年度は新型コロナの影響で中止になったが、2019年度までは道路愛護(年2回)に職員が草刈り機を持って参加されており、地域の方と顔馴染みになられている。中学生の体験学習を受け入れ、ご利用者と一緒にレクを楽しまれたり、入浴後のご利用者のドライバー等もして下さった。	今後も地域の情報を積極的に収集し、地域行事をホームの年間スケジュールに記入していく予定である。コロナの終息後には地域のお祭り等に参加したり、小学生や保育園児との交流も増やしていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や御家族様などに会話の中で活動内容はなしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、意見交換、質疑応答行っている。	市役所に相談し、感染対策で2020年3月・5月・7月は会議を中止した。通常は小規模多機能事業所と一緒に開催し、ご利用者も行事の感想等を伝えて下さっている。身体拘束適正化委員会や避難訓練等も会議の日に行い、外部評価結果も報告し、今後の取り組み内容を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いた。地域包括支援センター主催の勉強会への参加している。アセスメントの実施について直接担当者に意見を伺った	不明点を相談した時や実地指導の際もアドバイスを頂いている。今回の新型コロナ流行時や災害時も市役所から電話を頂いたり、マスクと消毒薬を配布して下さい、とても心強く思っている。地域包括主催の勉強会やGH協議会の部会に参加し、情報交換を続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の実施。また職員会議で権利擁護の勉強会も実施している。地域包括主催の権利擁護の勉強会へ参加している	身体拘束は全くしていない。個別の身体、精神状態を考慮し、職員間で情報の共有を行い、委員会や研修時に情報交換を続けている。日々の職員の対応も優しく、穏やかに過ごされている方が多く、帰宅願望の真意も理解し、外出(外泊)支援が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い再認識して防止に努めている。スタッフ間でのケアの共有・意見交換を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の外部勉強会に参加したり施設内での勉強会の実施を行っている。	制度のパンフレットを準備し、入居時に家族に説明している。制度を利用されている方もおられ、後見人(司法書士や親族)との話し合いをしている。入居後の制度の必要性も検討し、必要時は窓口を紹介している。管理者とケアマネが市の勉強会に参加し、職員に伝達研修している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、変更時は、必ず御家族に説明し、また質問、意見等あれば、その都度説明して了承いただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱の設置やご家族面会時に意見や要望を伺い朝の申し送りや職員会議等で話し合いをして反映させている。	コロナの影響で面会中止の期間があり、家族と連絡を取り合いながら不安の軽減に努めると共に、毎月の手紙や電話で暮らしぶりや健康状態を報告し、家族の思いを伺うように努めてこられた。コロナが流行する前は、敬老会や誕生日会などに家族と集う機会が作られていた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務内容やケアの方法など毎日の申し送りや会議にて意見交換、情報共有を行っている。	職員同士の助け合いも日常で、良きチームが作られている。職員の家庭事情も考慮して、勤務変更のお願いをしている。職員の意見やアイデアを大切にされており、社長も職員の意見を快諾されている。敬老会(会食)が好評で、2019年度は春と秋の2回、食事会を楽しむことができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休希望を聞いたり資格取得や子育て支援、各スタッフの状況や相談に応じ調整している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	そのスタッフの身体や家庭の状況に応じ、勤務体制を整えている。新しく入られたスタッフには、マンツーマンで指導を行っている。	主任が採用時の面接をしている。温かみのある方を採用しており、職員の紹介で就職される方もおられる。職員個々の特技(食事作りや設備管理など)を発揮されている。毎月の勉強会(レク・体操・介護保険・権利擁護・栄養・認知症など)も継続し、職員の能力アップに繋げている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の職員会議や日常生活での気づきがあれば、各入居者様に応じたケア方法を意見を出し話し合いにて決定・実施している。	2018年度から身体拘束廃止委員会を開始し、ご利用者の個別ケアの在り方や声かけの仕方等を再確認している。社長と主任、管理者等からも「高齢者の尊厳(言葉遣い、羞恥心、自尊心等)」の大切さを伝えており、職員も日々の関わりの中で実践を続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム部会や講習会、実践者・管理者研修への参加。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会、地域包括支援センター勉強会への参加。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や御家族、前施設の職員さんに尋ねている。ホームで出来ること、他機関との協力が必要なことをよく説明する。見学や体験のご案内を行い、実際の雰囲気を見て頂いている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に初期の支援は連絡を密にとり、以前の生活の事など伺いながら環境づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービスが必要になるか要望も含めて介護支援専門員が中心となって対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクの充実。誕生会など、みんなでお祝をする。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を毎月手紙で行っている。面会に関しては制限させて頂いていたが、電話を通じてお話しして頂いたり、玄関で距離を取って面会して頂いた。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限させて頂いていた中でも、玄関先での距離を取っての面会や、網戸越し、また電話で会話して頂くように工夫している。	ご利用者の生活歴の把握に努めており、家族宛での年賀状を作成し、ご利用者にもできる範囲で書いて頂いている。家族と一緒に病院受診し、食事をされたり、地域の方や知人の訪問もあり、リビングや部屋で過ごされている。家族とお墓参りや自宅に行かれる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で会話をして過ごして頂いたりスタッフが間に入ってゲームや体操などを一緒におこなって交流の場を作っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前施設で看取りさせて頂いたご利用者様のお通夜、葬儀、初盆や一周忌の時にご自宅へお参りに伺っている。転居された後も御家族が季節の野菜や果物を持ってこられたりして交流が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく、ご本人の好きなようにすごしていただいている。本人の意向があれば、それを職員へ伝え対応している。	会話が好きな方が多く、「食べたい物や飲みたい物」等の意向を伺うと共に、「家族に会いたい」という願いに対し、感染対策を踏まえながらも窓越しでの再会を楽しんで頂いた。家族からも生活歴等を教えて頂いている。歌好きな方が多く、ご利用者主体で合唱する時間が増えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご御家族との会話の中で色々な情報を収集するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議や朝の申し送り、ノートなどを活用し伝達し話し合いや対応に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何か気が付があればその都度報告し会議で話し合いを行い計画を立てている。	日々の体調観察と共に、3か月毎にアセスメントし、変化は赤字で記入している。ご本人の残存機能(できる事や役割)の記録を増やし、アセスメントと計画の整合性があるように努めている。日課表に注意点を記入し、日々のケアに活かしており、担当者が毎月モニタリングしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録へのレクの内容を明確に記入。朝・夕での申し送りでの伝達。大事な点は、申し送りノートへ記入し、情報の共有を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や面会等、ご本人や御家族の要望に応じて現在の状況を勘案して対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に応じて外出や買い物等支援していた。ご本人、御家族の要望に応じて地域資源の情報提供を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望する医療機関を利用していただいている。また、必要時受診の付き添いや送迎などの支援をおこなっている。	往診医と訪問看護師との連携ができており、主治医から食事形態や栄養面等の指示を頂いている。受診時は職員や家族が受診介助を行い、受診結果の共有もできている。職員の観察力も高く、異常の早期発見等に繋げており、家族に受診同席頂く場合もある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月二回健康チェックを行い、状態や気づいたことなど情報共有している。また訪問看護に来られた際に、その都度情報共有している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話での情報交換をおこない、職員が面会に伺う、医療機関との協力体制をとっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望があれば、看取りを行い支援できる体制を作っている。	入居時に「終末期ケアの方針」を説明している。「主治医や関係機関との連携、家族の協力を頂きながらの終末期ケアである」事の同意を頂いている。医療機関や看護師と連携し、職員間の情報共有を行うと共に、複数の家族のご希望の違いに寄り添い、家族も一緒に誠心誠意のケアが行えるように努めている。	今後も緊急時の対応や終末期ケア等の勉強会を行うと共に、体調変化時の主治医への報告のタイミング等の情報共有を深めていく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時、消防署より救命救急の講習をしていただいている。AEDの場所、使用方法通達している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施と地域の方々へ相談して災害時の情報や協力体制をお願いしている。	運営推進会議の時に、消防署と一緒に夜間想定 の訓練をしている。発電機や卓上コンロ、保存食や水と共に、消毒薬やマスク等を準備し、井戸水も利用できる。風水害等の災害計画を作成し、系列施設の応援体制も整えている。近くの川の増水状況を確認し、避難時期等を見極めている。	今後も更に、自動通報の登録者を再確認すると共に、風水害を想定した職員間の連絡訓練を行いたいと考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴、更衣介助時は、必ずドアを閉めて対応している。また日頃から言葉遣いには職員間で注意し合ったり、勉強会にて接遇について再確認を行っている。	ご利用者は人生の大先輩であり、言葉遣いに配慮している。居室に入る時はノック等を行い、入浴時等の羞恥心も配慮している。意思決定も大切にされており、ご本人に飲みたい物、着たい洋服等を尋ねている。記録物や情報の管理も行い、記録物の保管場所も留意している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの工夫を行い可能な限りご本人の意向を表現できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	空き時間で楽しみを持てるように、読書や歌番組を見てもらったり工夫している。空き時間では自主的にみんなで歌を歌ったり楽しんでおられる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やイベント時のお化粧品やネイルの支援や定期的な散髪が出来られるように支援をおこなっている。また更衣の際は好きな洋服を選んでいただくようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けやお米とぎ等手伝って頂いている。	2019年秋から法人本部で全ての事業所の副食と行事食を作り、ホームに届けている。献立は社長が考えており、汁物はホームで手作りする時もある。以前からホームの食事は好評で、今も変わらず「美味しい」と喜ばれている。ご利用者が盛り付けや食器洗いなどをして下さっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態に応じて補助食品の提供を行っている。またミキサー食や刻み食、ムース食など状態に応じて提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後きちんと口腔ケアを行い、必要に応じてスポンジブラシなど使用し介助している。個別に歯科による定期的な口腔ケアを実施している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合わせて、時間の調節、対応している。	昼間は全員トイレで排泄され、布の下着を着用する方もおられる。自立支援の視点を大切に、理念にある「あきらめない」ケアを実践している。ご利用者の排泄パターンを把握し、必要に応じて事前誘導し、便失禁が減った方もおられ、退院後におむつからリハビリパンツに変更できた方もおられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の冷水の提供。腹部マッサージ。集団体操や「歩け歩け運動」実施。主治医への相談により薬のコントロール行って頂いている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が前日に次の日の入浴者を書いてご利用者に分かるように掲示している。前日に用意が出来る方は自分で用意して頂いている。	入浴時の声かけのタイミングに配慮しており、入浴拒否は少ない。湯温や薬用シャンプーの使用等も、ご利用者の要望に応じている。入浴時は職員との会話(昔話等)を楽しまれ、柚子湯や菖蒲湯も楽しまれている。体調に応じて小規模の機械浴を使用する事もできる。	現在、週2回の入浴であり、ゆっくり湯船に浸かれている。失禁時等の清拭も行われているが、今後も更に入浴日以外の日の保清方法を検討していく予定である。
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	マッサージチェアでの休息。床ずれの方へエアーマットの貸し出し。介護用品の情報提供		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や受診後は情報の共有を行い、薬事表で確認している。薬剤師との身体状況などに情報共有・相談を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌好きな方が多く、自主的に歌を一緒にうたわれている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は職員付き添いで散歩に行っていたりしている。	コロナの影響で外出自粛期間を経験しているが、気候に応じて日光浴や散歩を楽しまれ、花を摘んでリビングに飾られている。外出好きな方が多く、ご利用者個々に希望を伺い、買物等にお連れしたり、外食(広川町の和華)や四季折々の花見(桜、コスモス等)に行かれています。今後も自宅への外出や外泊支援を増やす予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額でなければ、ご本人、ご家族の了解があれば所持して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいとの希望があれば、職員が御家族に電話し変わっていただいたり、面会をお願いをしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活導線上に危険物を置かないようにしている。季節に合わせたものの掲示、写真の掲示や花を飾っている。	リビングは広く、温湿度の調節を続けており、掃除は1日3回されている。社長が持参して下さる絵本を読まれたり、季節の貼り絵や塗り絵をされたり、マッサージチェアも愛用されている。廊下で歩行訓練をされたり、椅子やソファで団欒されている。前回の外部評価以降、脱衣所に冷暖房機を設置し、温度差解消になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空き時間で歌好きな皆さんで集まって歌って頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小さな観葉植物やテレビなど使い慣れた物を持ってきていただいて、ご本人が使いやすいように配置している。	ダンス・洋服・テレビ・家族の写真・植物・趣味の品物などを持ち込まれている。照明のスイッチの高さを低くしており、部屋中に手すりを設置している。備え付けの筆筒の上は布団などを置けるスペースになっている。今後は毎月の折り紙教室で作られる作品を部屋に飾る予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に応じて、お手伝いや作業をしていただいている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				